

## 初冬の極夜ジェットの季節進行の停滞とシベリアの寒冷化

### Detection of a climatological short break in the polar night jet in early winter and its relation to cooling over Siberia

\*安藤 雄太<sup>1</sup>、山崎 孝治<sup>2</sup>、立花 義裕<sup>1</sup>、小木 雅世<sup>3</sup>、浮田 甚郎<sup>4</sup>

\*Yuta Ando<sup>1</sup>, Koji Yamazaki<sup>2</sup>, Yoshihiro Tachibana<sup>1</sup>, Masayo Ogi<sup>3</sup>, Jinro Ukita<sup>4</sup>

1. 三重大学大学院 生物資源学研究科、2. 北海道大学、3. マニトバ大学、4. 新潟大学 理学部

1. Graduate School of Bioresources, Mie University, 2. Hokkaido University, 3. Centre for Earth Observation Science, University of Manitoba, 4. Faculty of Science, Niigata University

成層圏の強い西風（極夜ジェット）は、風速が10～12月後半に増加する。しかし、日平均データで見ると11月後半に一時的に増加が止まることが明らかとなった。この現象を本研究では季節進行の「停滞」と呼ぶ。本研究は気候値の極夜ジェットの11月後半における季節進行の停滞を力学的な視点から調べ、その要因を探ることを目的とする。

極夜ジェットの停滞は対流圏からのロスビー波伝播の急増と関連していた。この上向き伝播はシベリア域の低気圧偏差の強化に付随して発生した。低気圧偏差の強化には海陸の熱的コントラストが寄与する可能性を示唆した。

キーワード：成層圏、ロスビー波、海陸コントラスト、季節進行

Keywords: Stratosphere, Rossby wave, Land-sea heating contrast, Seasonal evolution

# Deviation of WAFz100 (16 NOV-30 NOV)

